



# ICT分野の研究開発人材育成に関する研究会

**A**dvanced **T**elecommunications **R**esearch Institute International

第3回WG資料 経営統括部 阿部 真

# 発表内容

- ATRの概要

歴史、組織、研究者の構成、評価

- ATRが出来ること

研究、教育、運営、環境

1985: 電電公社民営化

1986: ATR設立

1989: 「けいはんな学研都市」

最初の入居者として開所

以来「けいはんな学研都市」の

顔としての役割を務める

2001: 改組 (KTC→TAO)

## 組 織

経営統括部

技術リエゾンセンタ

音声言語コミュニケーション研究所

適応コミュニケーション研究所

波動工学研究所

脳情報研究所

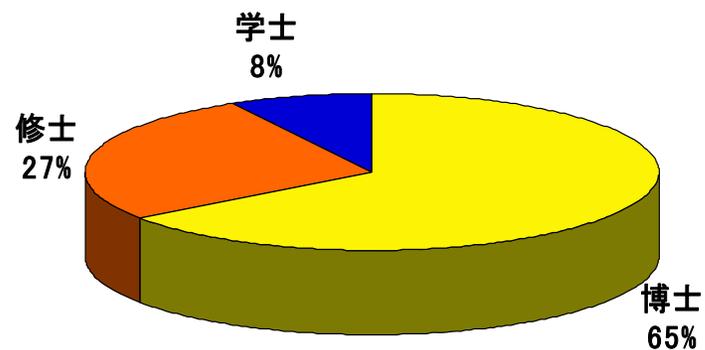
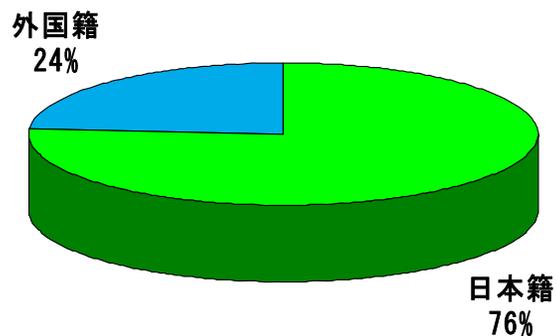
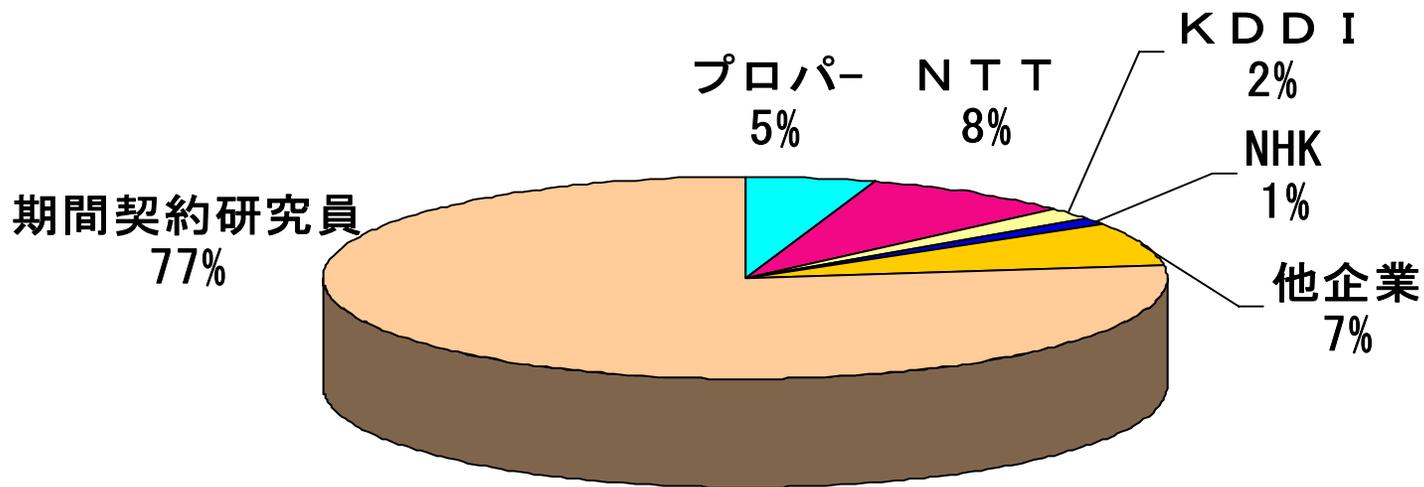
メディア情報科学研究所

知能ロボティクス研究所

認知情報科学研究所

知識科学研究所

# ATR 研究要員

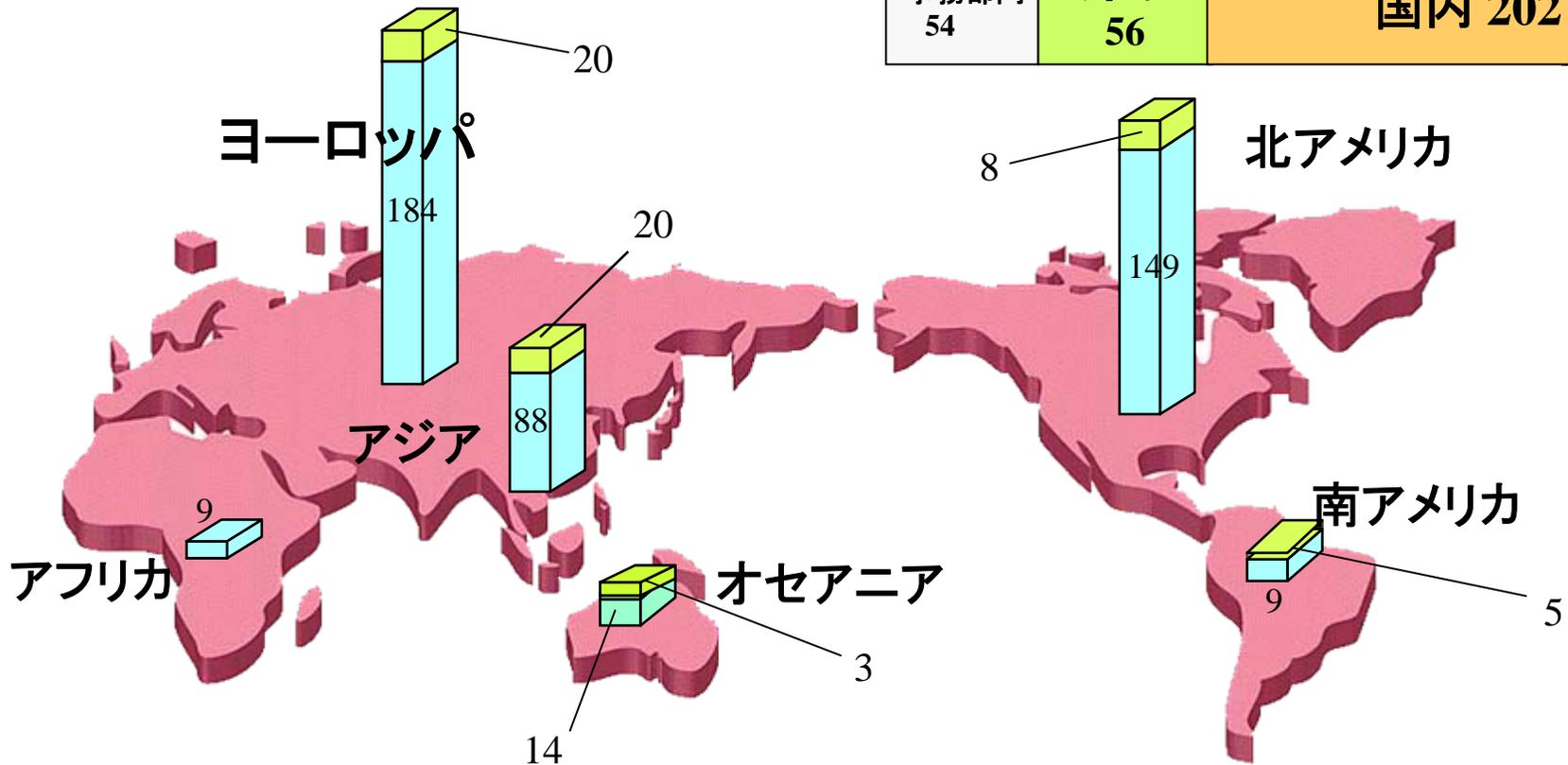




# 社員構成

## 海外からの研究者

社員総数 318		
事業部門6	研究員 258	
事務部門 54	海外 56	国内 202



現在ATRに勤務している研究員数  
今までATRで勤務した研究員数 6

\* 2006年5月1日現在

BusinessWeek: June 23, 1997

Department: Cover Story: Information Technology Annual Report

Headline: TABLE: **The World's Leading Info Tech Research Labs**

BIOLOGICALLY INSPIRED: ARTIFICIAL LIFE, COMPLEXITY THEORY,  
GENETIC ALGORITHMS, EVOLUTIONARY PROGRAMMING

Circa 1978	Today
U. Michigan	Santa Fe Institute
Stanford	Stanford
U. Maryland	U. Michigan
Bell Labs Colorado State University Los Alamos National Lab Santa Fe Institute Technical University of Berlin UCLA U. Dortmund U. North Carolina	<b><u>ATR Institute (Japan)</u></b> MIT AI Lab
CMU Cornell UC-San Diego U. Illinois	Caltech Los Alamos National Lab Naval Research Lab Swiss Federal Institute of Technology (EPFL, Lausanne) UC-San Diego U. Dortmund U. Illinois University of Sussex

DATA: BUSINESS WEEK SURVEY

# ノーベル財団での招待講演(ノーベル賞への道)

Prescreening for the Nobel Prize

Karolinska Institutet, Stockholm

- Nobel Forum (May 31, 2001)

“Cerebellum and Humanoid Robots”

- Nobel Conference (June 12-15, 2003)

“A unifying learning theory  
for internal models and impedance controllers”

*M. Kawato* (川人光男)

(*ATR Computational Neuroscience Laboratories*)

# ATRに出来ること 研究

- 最先端のR&Dを継続し、OJTの場を提供  
これまで企業から多くの研究者受入実績  
現在46名(17社)/研究員258名
- 現在の研究テーマに対し、参加を募る
- 新規研究テーマの構築  
R&Dのプランニング、立ち上げ、マネジメントの実践

# ATRに出来ること 教育

- 連携大学院としての教育実績

京大、阪大、奈良先端、神戸大、他  
約30校、述べ50名以上が従事

- 情報理論、メディア等の座学も対応可

- 学生受入実績

国内：京大、阪大等約20校

博士20名、修士以下約30名以上

国外：米、加、仏、独等約15カ国

博士10名、修士以下20～30名

(2003～2005年の実績、年平均受入人数)

# ATRに出来ること 運営

- 事務局機能

課題は、人材確保・人件費の捻出

- “けいはんな”における横断的組織の仲介  
*NiCT*をはじめ、企業の研究機関が集積  
連携して施策を実施することが可能か？

# ATRに出来ること 環境

- 国際交流

世界中から研究者が日常的に来所

- 研究人脈

国内外、多くの大学から客員研究者

- 福利・厚生

社宅の貸与、スポーツジム、テニスコート